



愛媛県立今治北高等学校

〒794-0052

愛媛県今治市宮下町2丁目2番14号

TEL 0898-32-2200

FAX 0898-25-6780

明治23年 今治町立今治高等女学校として創立

昭和24年 愛媛県立今治北高校と改称

志を高く持ち、自ら学び考え行動する生徒の育成を目指して、ワンランクアップの自分づくり、学習習慣の確立と進路実現、特別活動の充実と個性の伸長、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいる。

学級数：23 生徒数：911 普通科・商業科

体験活動に積極的な態度で取り組む

ボランティアは進路教育の一環として捉えているので、地域から案内が届くと募集を全校に呼びかけるようにしている。

全校一斉に取り組んでいる事業としては、1年生による歩道のゴミ拾いや除草の清掃活動がある。地域からの募集は小学生と高校生のサマーカーニバル in 別宮、鬼子母神大祭準備ボランティア、イオンでの献血呼びかけ等、さらに、ヤングボランティアの事業の一つシャッターボランティアを来島で行っている。

新しいことにも「行ってみよう経験してみよう」という意欲的な生徒が比較的多い。

さまざまな活動の案内をすると、参加を希望する生徒が多数集まるため、学校全体のボランティア参加状況が良くなってきている。

生徒にとっては見識が広がっていくようだ。看護系の生徒は施設へのボランティアに行くことによって進路について深く考えることが出来るし、異年齢の方々と接することで、人とのコミュニケーションをとることの難しさや大切さを体感するいい機会となっている。

依頼が来ると、各クラスに案内等配布し、参加人数等のとりまとめは担任にお願いしている。

いつでも連絡がとれるようにはしているが、活動場所へは教員の引率はなく、子どもたちだけで行かせることにしている。

今後は、既に参加したボランティア活動への継続的な呼びかけを行うと同時に、それ以外の活動についても積極的に参加を呼び掛ける予定である。



来島にてシャッターボランティア



柑太パークボランティア

利害優先の思考から奉仕の精神の醸成を目指してボランティア活動の参加を推進し、さらには若者が地域の方々と交流することが必要だろう。

ボランティアはみんなで行っていくもの、教師は、ボランティアに対してより高い意識を持ち、その上で生徒を指導して行動しなければならないと考える。



愛媛県立今治北高等学校

大三島分校

〒794-1304

愛媛県今治市大三島町宮浦 5297 番地 2

TEL 0897-82-0030

FAX 0897-82-0025

昭和 23 年 愛媛県立大三島高等学校並びに瀬戸崎分校設立認可

昭和 27 年 新校舎 愛媛県越智郡大三島町大字宮浦 1 番耕地 4713 番地に落成

平成 17 年 愛媛県立今治北高等学校大三島分校と名称変更

自律・創造・敬愛を校訓とし、地域と生徒の実態に即した教育を推進し、情報化・国際化社会を生きるにふさわしい自己教育力を身に付けさせ、心身ともに健康で個性豊かな人間を育成する。

学級数：3 生徒数：50 普通科

大三島のイイところマップ作成

「日本一美しい島・大三島で暮らすプロジェクト」の活動で大三島に来られていた、東京の NPO これからの建築を考える伊東建築塾の方々と生徒会が中心となって調査、協力し、宮浦港から大山祇神社に続く参道をイラストマップとして復元し文化祭等で展示した。

また、商業部が去年作成したマップを基に、大三島の「イイところマップ」を作成、地域の飲食店および図書館に置いている。置いていただいた店舗からは、追加してもらいたいと依頼されることも多い。

鶴姫祭りの鶴姫祭りのお手伝いにも積極的に参加した。

大三島分校は、宮浦地区と上浦地区の中学生が進学する。上浦地区から通っている生徒にとっては、マップの活動が新鮮に感じたようである。地域の方と話す機会が多くなり、イベントなどの企画にも参加することができて自主性が強まった。また、大三島の活性化に向けて自分たちになにができるかを深く考えるようになった。



大三島分校ゆるきゃら
みしま君・芋子

イベントに参加することで、実行委員の方々からは「活気がでた」と言われ、また、ふれあう機会が増えることで、高校生の存在一若い力を感じてもらえることとなった。

また、他県から3年間の期間限定で来られている「地域おこし協力隊」の方々と一緒に大三島を活性化する活動に協力している。

これらの活動は、地域に1つの少人数の学校であったこと、日ごろから地域とのつながりができていたこと、まずは、躊躇しないでチャレンジしていたことで前に向かって進んで行ったと思う。今後も、「イイところマップ」はリサーチを重ねて改編し、大三島参道イラストマップはガイドブックに改編してそれを利用してボランティアガイドを行ってみたい。



←伊東建築塾新地見学

→鶴姫まつり
鶴姫とみしま君





愛媛県立今治工業高等学校

〒794-0822

愛媛県今治市川南町1丁目1番36号

TEL 0898-22-0342

FAX 0898-22-6089

昭和 17 年 今治市立工業学校として創立。機械科・工業化学科の2科を設置

昭和 24 年 今治西高等学校として、今治第一高等学校と合併、開校式挙行

昭和 27 年 今治西高等学校より分離独立し、愛媛県立今治工業高等学校と改称

「ものづくりから人づくりへ」を目標に、モノ作りを通じた豊かな人間形成の推進、分かる授業の展開と基礎基本の定着、基本的生活習慣の確立と自立心の育成、部活動の充実と個性豊かな人間の育成、各種資格習得の奨励とキャリア教育の推進力、地域社会へのボランティア活動の推進を目指している。

学級数：18 生徒数：625 機械科・電気科・環境科学科・電子機械科・情報技術科・線維デザイン科

国際ロータリークラブとの交流

インターアクト部は、主に今治南国際ロータリークラブとともに観月会やアイランド今治、防災フェスティバル等のイベントの手伝いや募金活動、公園清掃活動を行っている。ロータリークラブの会員は、地元の名士が多く、日ごろ話す機会のない方々と交流をもつことができるので、活きたキャリア教育だと思っている。また、余島の少年少女キャンプに参加して、他県の人とも交流するなど、学校だけではできないこともできている。

繊維デザイン科の生徒は、東日本大震災のときは、宮城県へタオルをデザインして送った。電子機械科は出前授業を行い、小学生にロボット体験をしてもらった。

文化祭は、地域へ公開している。T シャツ作りやハンドクリーム作りなど、地域の方々とふれあい、アピールできるような工夫をしている。

他には、特別養護老人ホームのイベント手伝い、蒼社川清掃、他校の生徒とともに近見山清掃、今治駅での作品展示等の活動をしている。

生徒たちは、ボランティアと言う意識はうすく、自ら自然体で取り組んでいる様子である。

今後も、伝統的に引き継がれている活動については継続して、地域からの依頼については、管理職と精査して生徒の希望があれば参加する予定である。

ボランティア活動は心豊かな生徒を育成するためには必要だと思うが、検定試験や部活動が忙しく、時間が確保できにくい。また、積極的に参加する生徒も少ないので、将来的に、ボランティア活動を学習評価に取り組むことができればと思う。



インターアクト表彰





愛媛県立伯方高等学校

〒794-2301

愛媛県今治市伯方町有津甲 2358 番地

TEL 0897-72-0034

FAX 0897-72-1664

昭和 23 年 愛媛県立伯方高等学校（定時制独立校）として創立

昭和 29 年 全日制に切り替え

忍耐…風雪の道を歩み自己をきたえ、真剣…探求の道を歩み英知を磨き、希望…理想をかかげ未来をひらくことを校訓とし、自らを律し、自ら学び鍛える生徒を育成する。

学級数：6 生徒数：131 普通科

明日に輝けボランティア同好会

過疎化・高齢化の進む伯方島では、高校生のボランティア活動の機会はとて多い。多くの生徒が地元の児童館や老人介護福祉施設のどのイベントに参加している。また、しまなみ海道を走破する『しまなみ海道 100km ウルトラ遠足』のスタッフ補助としての活動や、11 月 10 日の文化祭では、台風 26 号の影響により土砂流で被災した東京都伊豆大島へ募金活動を実施、同じ“島”に住む島民からも賛同を得ることができた。

そのような中で、2 年生 2 名が発起人となり、今年度ボランティア同好会を立ち上げた。「自分になにができるか」を考えて校内 42 か所のトイレのペーパーホルダー製作・設置、古着を回収して布ぞうり製作・配布を行った。

冬休みには小中学生、保護者を対象とした星空観察を開催することも思案中である。



生徒会とボランティア同好会の積極的な呼びかけに、ボランティア参加人数は前年に比べ増えてきている。

ボランティア同好会の設立・運営にかかわり、ボランティア参加の呼びかけを行う中で、生徒が自分の居場所を見つけることができたこと、役割を得たことが、自己有用感を高める結果につながったと考えている。

2014 年には、愛媛県と広島県が共同開催する『瀬戸内しまのわ 2014』で、1 万人規模の参加が予想されるサイクリングの世界大会が予定されている。また、2017 年の愛媛国体等、多くの地域からの観光客が来島することが見込まれている。

伯方島が、ボランティア・地域交流のネットワークの中心になることを目指す中で、伯方高校がボランティア同好会を中心として、さらなる力を発揮できることを期待する。



愛媛県立弓削高等学校

〒794-2505

愛媛県越智郡上島町弓削明神 305 番地

TEL 0897-77-2021

FAX 0897-77-3844

昭和 23 年 愛媛県立弓削高等学校定時制課程普通科及び岩城分校設立

昭和 32 年 愛媛県今治西高等学校弓削分校全日制課程普通科を併設

昭和 33 年 今治西高等学校から分離独立、愛媛県立弓削高等学校全日制課程となる。

勉学・敬愛・創造を校訓に徳・知・体のとれた、人間性豊かで、心身共にたくましい人間の育成を目指す。

学級数：3 生徒数：51 普通科

地域の中であたたかく共に歩む

地域からの依頼があれば、すべて、各クラスに募集するようにしている。デイサービス介護施設でのイベントのお手伝いや養護施設の訪問には全校生徒の 6~7 割もの生徒が積極的に参加する。

上島町では、夏休みを利用して「島おこし協力隊」を中心に「かわうそキャンプ」が開催される。これは、小 4~中 3 までの子どもを対象に 2 泊 3 日で行われるもので、本校の生徒もボランティアスタッフとして参加している。

また、家庭クラブで特別養護老人ホーム「海光園」を年数回訪問している。これは、生徒が自主的に参加するもので、訪問時の指導は施設職員が行ってくれる。たとえば、介護の手伝いの際に問題が起きても、職員の方がていねいにその対処方法を教えてくれるので、参加した生徒たちは介護における注意点や要領を体験的に学び、介護を身近に感じることができる。さらに、地元の特定非営利活動法人主催のイベント「ふくふく祭」のお手伝いにも毎年参加している。狭い地域なので、利用者のご老人とは相識の間柄であることもめずらしくはない。

生徒は地域の中で温かく見守られ、地域の人たちと共に歩みながら成長していくことができるので、故郷を思う心が育っている。卒業後も上島町に戻ってくる生徒が少なくない。

上島町は少子高齢化が急速に進行している地域であることから、高校生に対するボランティア依頼が多い。生徒にとっては、学校では学ぶことのできない多くのことを学ぶためのいい機会となっている。

地元の人たちは、高校生が地域の将来を背負ってくれるであろう人材として期待し、生徒たちも地域の期待を肌で感じながら地域を愛する活動に参加している。

本校は現在、生徒数が減少の一途をたどっており、存続が現実的な問題となっている。地域の人材育成という重要な役割を担う本校は、地域に貢献できるボランティア活動を通じて、地域とのつながりをより密接なものとし、その存在感をますます高めるように努力していきたい。



ふくふく祭



かわうそキャンプ